

白亜紀中頃の恐竜化石を求めて、 モンゴルとウズベキスタンの砂漠へ行ってきました。



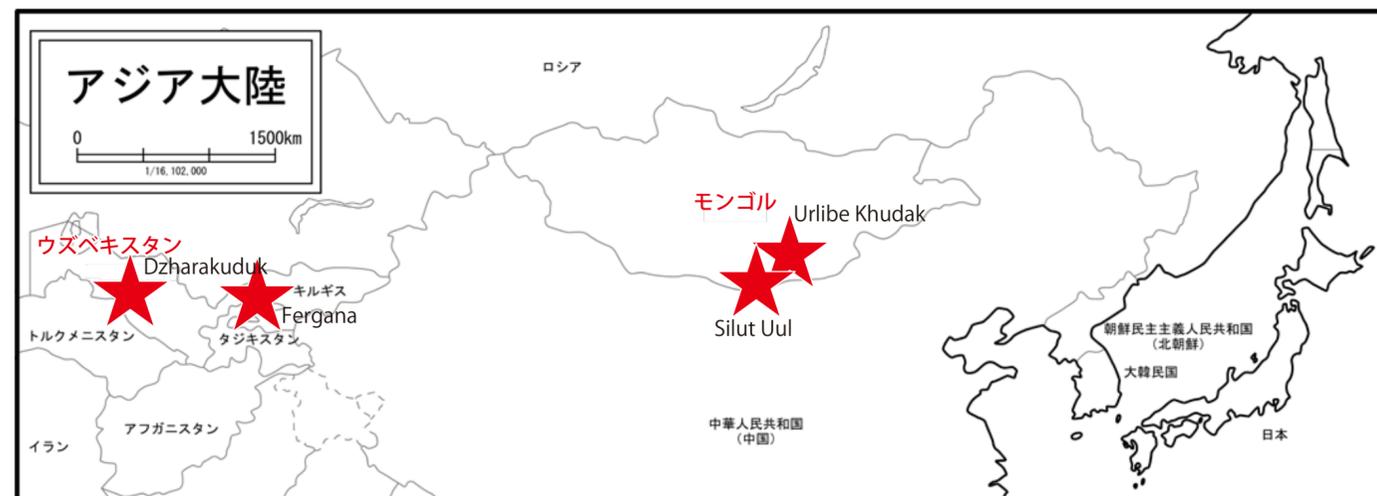
自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

久保田 克博

2023年は毎年調査しているモンゴルのゴビ砂漠に加えて、ウズベキスタンのキジルクム砂漠での調査も行いました。ともに恐竜時代の中でも化石記録が少なく、謎多き時代と言われる、白亜紀中頃の地層が広がる場所です。

モンゴルでは恐竜の全身骨格の発掘や足跡化石の調査を行いました。ウズベキスタンでは予備調査として化石発見記録がある数地点を回り、キジルクム砂漠で鉄質団塊層に含まれる固い化石を発見することができました。次年以降は本格的な調査へと移行する予定です。

これら二国と日本を含めて考えていくと、白亜紀中頃の恐竜相にどのような種多様性があり、時代とともにどのような変化が生じたのか、周辺環境や生物との相互関係はどのようなものだったのかなど、興味は尽きません。これらの調査から、どのような新知見が明らかになるのか、今後の研究活動にご注目ください。



2023年の調査地であるモンゴルのUrlike KhudakとSilut Uul、ウズベキスタンのDzharakudukとFerganaの位置



モンゴル Urlike Khudak で発見した恐竜の全身骨格を発掘中



モンゴル Silut Uul で掘り上げた恐竜化石の巨大なジャケット



ウズベキスタンのキジルクム砂漠。こんな風景が延々と広がっている。



ウズベキスタンのキジルクム砂漠では鉄質団塊層に化石が含まれる。